

缶バッジ内製化で利益拡大!

実践に役立つステップガイドをご紹介します



はじめに

缶バッジビジネスによる利益拡大、あるいは事業拡大に向けて体制変更を検討しているという場合、これまでの外注生産から内製化に切り替えるという方法があります。現在、缶バッジの製作業務はすべて外注、あるいはロットの小さい依頼のみ内製しているのであれば、すべての受注を内製化することで外注にかかるコストをカットし、より柔軟性のある生産体制を実現できます。初期投資は必要となるものの、外注費が継続して発生するのにくらべれば一時的負担であるため、最終的には利益拡大が達成できます。

本Ebookでは、缶バッジ製作における内製化のメリットと知っておきたいデメリット、内製化すべきかどうかの判断、内製化をどのように進めていくのかの参考となるステップガイドをまとめて解説します。

**缶バッジ製作の内製化についてお悩みの際には、
ぜひご一読ください。**

もくじ

はじめに	01
缶バッジ内製化のメリットデメリット	02
内製か外注かの判断ポイント	03
内製化に向けて解決すべき課題	04
内製化のステップガイド①	05
内製化のステップガイド②	06
内製化のステップガイド③	07
缶バッジの内製化は「バッジマンネット」がお手伝いします!	08
まとめ	09

缶バッジ内製化のメリットデメリット

缶バッジを内製化するにあたり、知っておきたいメリットとデメリットを解説します。

メリット



納期の管理と柔軟性の向上

自社内で生産することで、納期を自社でコントロールできるようになります。個数の増減やデザイン変更など、市場の変化、クライアントのニーズに柔軟に対応することができます。



コスト削減

外部業者への支払いや仲介コストなど、内製化によって削ることができる経費は少なくありません。また大量生産や効率向上の取り組みにより、生産コストを適正化すれば大幅なコスト削減も期待できます。



社内技術力やノウハウの蓄積

自社内で作業を行うことで、缶バッジ製作における技術力やノウハウを蓄積できます。品質や生産性の維持ができ、市場での競争力向上に貢献します。

デメリット



スタッフ育成に時間とコストがかかる

品質の良い缶バッジ製作を行うためには、スキルや知識を持つスタッフが必要です。人材育成には、ある程度の時間とコストがかかります。



設備費用が発生

内製化するにあたり、設備の調達と保守管理コストが発生します。生産ライン、施設、機器などが必要となるため、初期投資が必要です。



設備メンテナンスが必要になる

製造の設備には、定期的なメンテナンスが必要となります。これを怠ると、どれほど優秀な機器を導入しても、缶バッジの品質や生産効率の低下を招くおそれがあります。

内製化によるメリットとデメリットのどちらが大きいかは、製作状況や企業の体制によって異なります。効果的な戦略を実行するためには、メリットとデメリットの内容を検討し、自社の事業状況に合わせて選択することが大切です。

▶ 次ページでは自社の方針の参考となる、「内製化か外注かの判断ポイント」を紹介します。

内製か外注かの判断ポイント

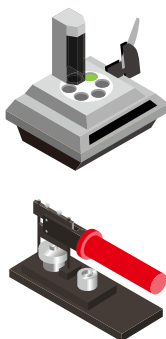
自社にとって、内製と外注どちらが適しているのかを判断するポイントを紹介します。

■ 内製化に踏み切るべきかの判断ポイント

受注に見合う生産能力が確保できるか

生産ラインや作業スペース、必要な人材が揃っているかどうかを確認し、受注量を処理できるかを評価します。

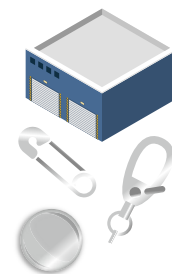
例えば小ロットでしか受注しないような事業形態であれば、缶バッジはマンションの一室で製作することも可能です。しかし月50万個を生産するような規模を目指すのであれば、缶バッジマシンを1, 2台導入するくらいでは対応できません。スペースを十分に確保し、設備を充実させる必要があります。



素材(パーツ)や製品の保管スペースが確保できるか

自社内での保管スペースが限られている場合、大量の素材や製品を適切に保管するのは困難です。生産能力に見合った十分な数の素材(パーツ)や完成品を、一時的に保管できる倉庫が必要となります。

また、ビジネスの視点では単に保管するだけではなく、缶バッジの品質を維持できることが重要です。不適切な倉庫環境では缶バッジにサビが生じるおそれもあるため、気温や湿度の管理・コントロールを行う必要があります。併せて乾燥剤や防錆剤の利用も検討し、環境の整備された保管スペースを持たなければなりません。



コストが見合うか

内製化による設備投資や人件費、運営コストを考慮しながら、外注と比較し、内製のコストが妥当であるかどうかを評価します。

大量生産、事業拡大による効果が見込める場合には、内製のコスト効率が高くなります。



業務継続性

缶バッジ製作が、自社にとって長期間継続する事業であるかどうかを考慮します。一時的な需要に対応するために設備を整えるのは、コストバランスが良いとは言えません。

缶バッジ事業が長期間続く場合、内製化にかかる投資が回収され、さらなる利益拡大に貢献します。



品質管理

製品の品質は、ビジネスの成功に大きく影響します。内製と外注の品質管理プロセスを比較し、要求される品質水準に適合する方法を選択する必要があります。

例えば外注の品質に納得できていない場合には、内製化において品質改善の余地があると言えるでしょう。



内製化に向けて解決すべき課題

内製化に向けて、あらかじめ解決しておくべき課題を確認しておきましょう。



■ 内製化の課題

資金調達

内製化には設備、設備のメンテナンス、スキル育成などに関する資金が必要となるため、これに対応できるキャッシュフロー戦略の策定が求められます。自社独自の資金繰りを行うほか、補助金や助成金、税制優遇などの活用もおすすめです。

保管スペース確保の課

生産の一環として素材、製品を保管するための倉庫スペースが必要です。適切な在庫レベルと品質を維持し、古い在庫の廃棄処理を正しく行うことが求められます。供給リスクや資材の劣化防止の管理体制を整備する必要があります。

品質管理

製品や素材の品質を維持するための品質管理体制を整備する必要があります。素材（パーツ）および完成品を、常に一定以上の品質水準で保てるような環境とチェック体制を整えます。

人材確保と育成

内製化のための技術要員を獲得、育成することが必要です。自社で品質の良い缶バッジ製作を実現できるようなスキル人材と、その管理を行う人材を確保することが求められます。

生産効率向上

自社内での生産効率を向上させるためのプロセス改善、ルール設定、最適な設備選定などが必要です。作業上の安全を確保しながら、スムーズに作業を進められるよう検討します。

ロジスティクスとサプライチェーン管理

生産から出荷までのプロセスや原材料調達など、サプライチェーン全体の効率的な管理が必要です。需要に応じた製作を確実に行えるような流れを、全体的に管理します。

生産能力（設備）確保の課題

必要な設備（機械、生産ライン）の選定と調達、定期的なメンテナンスやアップグレードの体制づくりが必要となります。

リスク管理

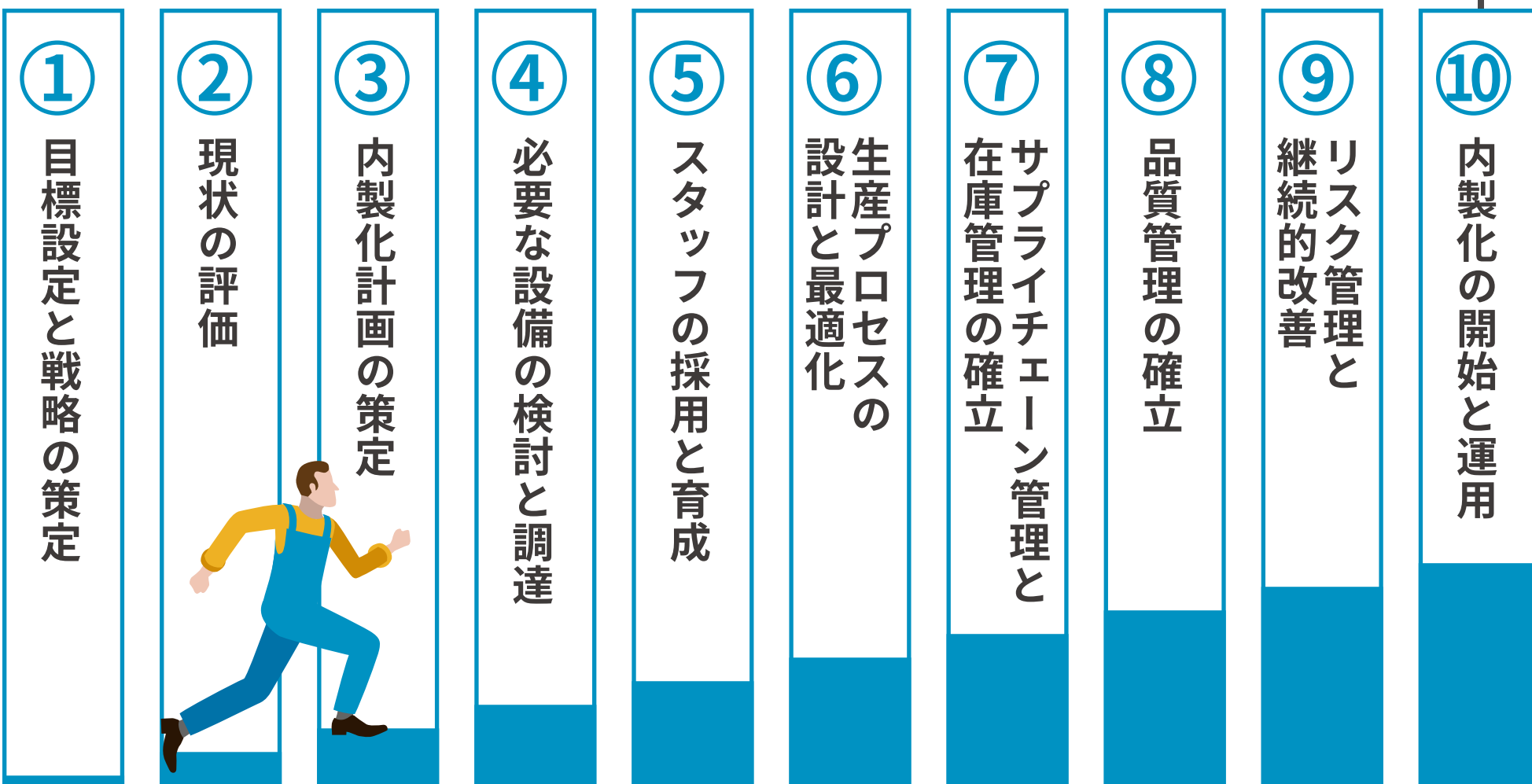
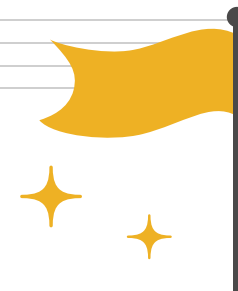
内製化に伴うリスクとして供給リスク、品質コントロールのリスク、市場変化などに対処するためのリスク管理部署と戦略の策定が必要です。安定化に向け、事業に支障をきたす要因を早期に発見し、対応することが求められます。

法規制とコンプライアンス

関連する法規制や許認可、コンプライアンスに適合するための体制を整備し、監査や報告を実施する必要があります。

内製化のステップガイド ①

缶バッジ内製化を実現するまでのステップを紹介します。



内製化のステップガイド ②

6ページ目で紹介した各ステップの詳細を説明します。

① 目標設定と戦略の策定

内製化を行う主な理由は、コスト削減、品質管理の向上、供給リスクの低減、生産能力の向上などが考えられます。これらの目的に合致するビジネス戦略を策定し、内製化がビジネスにどのような利点をもたらすか、その成功基準を明らかにします。



③ 内製化計画の策定

内製化プロジェクトのスケジュール、予算、リソース要件、技術要件、設備の調達、人材のスキルセットなどを詳細に計画します。計画には、内製化における段階評価を含め、プロジェクトの進行状況の確認を行います。



⑤ スタッフの採用と育成

内製化に向けて、スキルをもっている人材を採用、あるいは内部社員を育成する必要があります。設備の操作とメンテナンス、素材と製品の品質管理といった一連の生産プロセスについて十分な知識と技術が求められます。内製化プロセスの専門家を育成することは、缶バッジビジネスの成功に直結する大きな要因です。



② 現状の評価

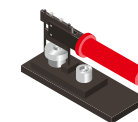
現在の外注プロセスを評価し、内製化の適切性を確認します。外注コストと利益バランス、品質、供給リスク、生産能力、納期遵守、技術的な要件などの要因を検討。これにより、内製化の必要性と潜在的なリスクを把握できます。



④ 必要な設備の検討と調達

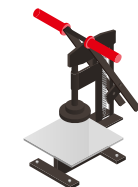
必須の缶バッジマシン (自動&手動)

「多品種少量生産でコストを抑えたい」「効率的に量産したい」といった製作する量や種類、コストによって、それぞれ適したものがああります。一定品質で大量生産するなら自動缶バッジマシンがおすすめです。



プレスカッティングマシン

複数枚の用紙をまとめてカットできる高効率でハイパワーなカッターです。通常のカッターでは間に合わないような、大量製作を行う場合に便利です。



オートラミネーター

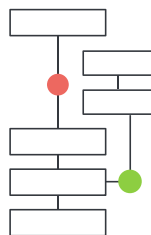
あらかじめ用紙にラミネート加工を施すことにより、製作時にフィルムをセットする工程をスキップすることができ、クオリティと生産効率を高められます。必ずいるというわけではありませんが、作業効率化におすすめです。



内製化のステップガイド ③

⑥ 生産プロセスの設計と最適化

内製化においては、効率的な作業フローを確立し、生産プロセスの段階ごとに品質管理を組み込むことが重要です。もっとも生産性の上がる手順について検討し、ルールを設定することでコスト削減と品質および作業時の安全性向上に貢献します。

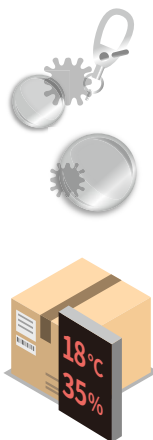


⑧ 品質管理の確立

缶バッジの大敵「サビ」への対策は、ビジネスにおいて非常に重要性です。そのためには、倉庫内の環境の徹底整備や、乾燥剤ではなく防錆剤を採用するといったこだわりが求められます。

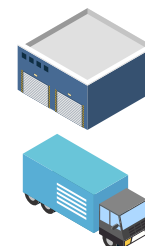
とくにライセンスグッズとして缶バッジをつくる場合は、厳しい品質管理が必要です。あらかじめ仕様と品質基準についてクライアントとの共通認識をつくっておくことで、クライアントにとっての安心、制作側にとっての保険となります。基準をまとめた納品仕様書のようなものを発行するのも有効策です。

印刷の発色やレイアウトなどのデザイン性、傷や擦れ、へこみの排除、仕様通りの仕上がり、さらにパーツの耐久性や耐候性、安全性の高さなど、缶バッジに求められる品質をすべてクリアする意識が必要です。



⑦ サプライチェーン管理と在庫管理の確立

内製化において、素材の調達から生産、在庫管理、製品の出荷までのサプライチェーン全体のプロセスを効率的に管理し、確実性を高めることは事業の信頼性を強化します。受注に正確に対応できる体制を整備し、在庫管理および品質管理を徹底しながら、生産と需要の調整を最適化していきます。



⑨ リスク管理と継続的改善

変化する市場条件や生産プロセスの課題に対処するために、リスク管理戦略を策定し、継続的な改善を実施します。品質問題、供給リスク、コスト上昇などのリスク要因を監視し、問題が発生した場合には迅速に対応できるよう準備を行います。先を見通すことで、リスク要因を減少できます。



⑩ 内製化の開始と運用

缶バッジ内製化の開始後、計画とルールにしたがって作業が行われ、品質基準が満たされていることを随時チェックすることが重要です。計画通りに効率的な業務ができているか、事業の生産性は満足できるものかを判断できるよう、数値によって可視化し、定期的な監査と改善に努めます。



缶バッジの内製化は「バッジマンネット」がお手伝いします！

■ バッジマンネットとは

バッジマンネットは2009年4月3日設立、高品質な商品を手ごろな価格で提供している缶バッジマシンとパーツの販売専門店です。缶バッジの本場である米国から直接輸入した商品にくわえ、自社開発こだわりのラインナップも充実しています。

バッジマンネットでは創業以来、"Power To Create"（創造する力）をモットーに掲げ、缶バッジの魅力を広め、発信してきました。高品質と低価格を追求し、豊富な在庫と多彩な種類の商品を提供。さらに缶バッジ製作全般のサポートを行いながら、缶バッジビジネスの振興に努めています。

現在ユーザー数は25,300件を超え、ユーザーの6割以上が法人です。官公庁などでも多数利用されています。またその4割は既存ユーザーからの紹介ということからも、お使いの皆さまから高い評価を得ていることが伝わります。

■ バッジマンネットの特徴

バッジマンネットの缶バッジマシンはメタル仕様で耐久性が抜群なうえ、手厚い保証、アフターサービス、長期保証期間を付帯しています。自動缶バッジマシンは、高品質な米国製であると同時にPSE対応で高い安全性を担保します。マシンごとのシリアルナンバーを付与し、修理履歴を管理しているため、担当者が変わっても常に最適な対応を提供しています。

バッジマンネットでは、缶バッジ製作のノウハウや情報提供、トラブルシューティング、生産体制のアドバイス、適切な商品選びなど、事業に役立つ情報の提供を積極的に行っています。また、バッジマンネットでは、自社で缶バッジ製造を行っていません。顧客の競合にならないマシン&パーツの専門店だからこそ、すべてのノウハウの提供が可能となります。保有する知識を惜しみなく提供することで、顧客の事業の成功を力強く支える存在となっています。バッジマンネットのウェブサイトでは、缶バッジビジネスに関する役立つコラムや無料で閲覧できるEbookを多数提供しています。

また内製化で迷いがちな保管についても、バッジマンネットならばジャストインタイムのお届けで倉庫代わりにお使いいただけるため、在庫管理も安心です。もちろん缶バッジ保管には最高の倉庫内環境を整備し、品質の徹底管理を実施しています。とくにサビ対策には徹底した配慮を行っており、倉庫内の空気循環や有効性の高い防錆剤など、専門店としての強いこだわりがあります。



缶バッジビジネスのための
お役立ちコラム、
Ebookの無料閲覧も可能です。

お役立ちコラムはこちら ▶

Ebookはこちら ▶

まとめ

缶バッジ製作の内製化には、外注にはない多くのメリットがある一方で、デメリットも存在します。大切なのは自社の事業に合わせ、誤りのない選択をすることです。

缶バッジビジネスをこの先も事業として継続し、一定以上の受注が見込めるのであれば内製化に踏み切る価値は十分にあります。内製化により大きな成果を得るためには、しっかりと計画し、最適と考えられる製造環境を整備する必要があります。高性能なマシン、品質の保証された素材の入手と品質管理が重要です。すべての条件を一度に満たすのは容易ではありませんが、バッジマンネットをパートナーにすることでこれらの課題を解決できます。

内製化に関するあらゆる課題や不安、最適なマシン選び、さらに事業展開についての悩みなど、専門家の手厚いサポートとアドバイスがあれば解消することは難しくありません。これまですべて外注に頼っていた企業でも、缶バッジ製作に関するバッジマンネットのノウハウと支えによって、安心して内製化をスタートできるでしょう。

**ビジネスの飛躍に向けて、
缶バッジ製作の内製化をお考えの際には、
ぜひバッジマンネットにご相談ください。**



<https://www.badge-man.net>

お問い合わせ ▶

資料請求 ▶